平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	59	都道府県・指定都市名	京都市
学校名（児童数）	京都市立桂徳小学校（454 名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：京都府京都市西京区桂徳大寺南町２
電話番号：(075)381-7037　ＦＡＸ：(075)381-7038
研究内容等を掲載しているウェブサイトのURL：http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/keitoku-s

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校
○研究対象教科等：総合的な学習の時間
○研究のキーワード：探究，協同，創造，整理･分析，自分づくり
○研究成果のポイント：
- 体験を重視し，探究の過程を重視した単元構想の作成
- 子供と教師が付けたい力を共有し，その成果を振り返る評価方法の研究
- 探究的な学習において重要な整理・分析する力の育成
- 他者と協同して学習活動に取り組む力の育成

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

探究･協同の学習を通して「自分づくり」の学びを創造する子どもの育成

（２）研究主題設定の理由

これまでの学力調査の結果から，人･もの･ことなどの様々な事象に対して感じる心，課題を解決していこうとする意欲があることが分かってきた。今後さらに，体験を通して一人一人が切実な課題意識をもち，自ら学び，共に学び，さらに新たな課題に挑んでいく子供の姿が見える学習指導の研究を行う。

問題解決のための活動が繰り返され，スパイラルに探究が深まる過程において，体験活動や思考力･判断力･表現力等を育む言語活動を適切に位置付ける。また，他者と協同して問題解決のために収集した情報を整理・分析して思考する学習活動を重視する。

さらに言語で思考判断し表現等ができるように，研究教科とともに，他の教科においても研究主題に迫れるよう学年の発達段階を踏まえ，力の系統性をはっきりさせて「書く力」や「聞きあう力」の育成を図っていく。

（３）研究体制

研究企画部（校長･教頭･教務主任･研究主任･生活科主任･総合的な学習主任）

学習構想部	学習環境部
単元構想作成 学習評価検討	桂徳シンキングブック作成 学習環境整備

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	4･5月	・研究主題･めざす子供の姿･つけたい力などの再確認 ・整理分析・協同的な学びについての学習会 ・探究，協同の学びをつくる単元構想の作成（年間70時間1単元で）
	6 月～10 月	・協同的な学びの場面の授業公開（各学級２回）
	10 月	・第１回２年～3 年『つけたい力児童アンケート』実施後分析
	11月22日	・全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会京都大会授業会場 全学級授業公開・学年協議会開催
	1月～2月	・単元の最終課題『表現課題・他者に提案する』場面を保護者に公開
	2月	・子供と教師による評価セッション ・第２回１年～6 年『つけたい力児童アンケート』実施後分析

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

◆探究の過程を重視した単元構想の工夫

○単元を構想するにあたっては単元そのものが地域との関わり，地域への愛着が深まるのは当然のことながら，学びの過程の中に豊かな体験・そして協同的な学びの場を適切に位置付け探究的な学びの高まりが自ずと生まれるように構想する。

○総合的な学習の時間においては，まずは子供自らが課題を生み出し，納得・実感がこみあげてくるような体験活動や「情報収集，整理・分析，まとめ・表現」において，思考ツールを活用しながら適切に行うとともに，課題が更新されていくように，専門家や事実との出会いを位置付け，探究が深まるように構想する。

◆指導と評価の一体化

○学んだことを振り返るとともに，書き溜めた記録を見直し，自己の変容を見つめ，よりよい自己を創造するための学びの価値と自分の良さが実感できるような自己評価，相互評価の場を適切に位置付ける。（評価セッションの時間の設定）

◆学習環境整備

○学習状況が子供に分かるように学年掲示を活用し，思考の流れを残す。

○思考方法が他の教科でも活用できるように，3年生以上の子供一人一人に「桂徳シンキングブック」という思考方法の手引書を携帯できるようにする。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○体験を重視し，探究の過程を重視した単元構想の作成

地域に根ざした学年テーマを設定することで，地域への愛着心や社会参画への意識が芽生えた。また，単元を構想するときには，体験を重視し，そこから生まれた課題が連続するよう，子供の思考の流れを大切にしたことから，子供が自分事の課題として探究を進めていくことができた。さらに，探究の過程がより明確になるよう，体験から導き出された課題をどのように整理・分析するのかを考え単元構想に明記した。その結果，内容に応じた思考ツールを位置付け，論点のはっきりした話し合いが生まれた。また，探究の過程がスパイラルに高まるように，５つのステージに分けて課題を醸成するように進めた。長期にわたる単元ではあるが，活動に変化と深まりが見えるものとなった。

○評価方法の研究

「学びをつくる，関わりをつくる，自分をつくる」の三観点からつけたい力を整理し見取ると共に，子供自身が自己の変容を捉え，その原動力となった学びを振り返り自分への自信や友達と共に学ぶことの有用性を実感できるように進めた。

○探究的な学習で重要な整理・分析する力の育成

子供が体験を通して課題を設定し，その課題を基に観察・実験・見学・調査，探索，追体験を行うことによって課題解決に必要な情報を収集する。そして，その情報を整理したり分析したりする方法を身につけることで，物事の本質に気付き問題点が可視化され，新たな課題になっていくことに気付くことができた。

○他者と協同して学習活動に取り組む力の育成

友達だけでなく地域の人や専門家の人などと協同して学習活動に取り組むことで，新たな価値が生まれ、コミュニケーションをとることの楽しさと大切さを感じることが出来た。

（２）研究成果の意義等

全国大会での公開授業，事後の学年協議会で探究的な学び及び，協同的に学ぶ授業づくりを発信することができた。

（３）指定期間終了後の取組

①今年の実践を踏まえ，子供達が生み出す課題を大切にした単元構想を再構築する。

②つけたい力，ついた力を，子供と教師が共有する評価方法を研究する。

③総合的な学習の時間で学んだ協同の学びを他教科でも生かせるよう授業を改革する。

④出会った人々の生き方に触れ，自分の生き方をも考えられるような単元を構想する。